

— 芝浦工業大学 —

2月21日(月) 後期日程 英語

解答・解説

I

1 b	2 a	3 d	4 b	5 d
-----	-----	-----	-----	-----

- 空欄前のBのセリフ「私のお願いきいてもらえないかなって思っていたんだよ」に続く。「もちろんあなたのために何をすればよいですか？」
- 空欄前のBのセリフに対して「私もそう思わずにはいられない」と続く Why don't we...? は「…するのはどうですか？」と相手に提案をする表現。
- 空欄直後の Yes.の注目。空欄でどのような疑問文が入るのかを考える。Yes.の後のセリフ「今日の午後嵐になるかもしれない」から、aが不適切であると判断できる。d「天気予報を確認しましたか？」が適切。
- 空欄前のBのセリフ「私が大学に行くといつも、彼(=ジム)に会うよ」に続く。「そこ(=大学)で彼を見つけてみるよ」
- 空欄直後のBのセリフ中の this が何を指しているかを考える。dの中の what I wrote に対応する。

II

1 b	2 d	3 a	4 b	5 c
-----	-----	-----	-----	-----

- instrument 「(速度・温度などの) 計器, 測定器」 device 「装置, 器具」と同義と判断。
- means 「手段」 way 「方法」と同義と判断。
- shortage 「不足」 sufficiency 「十分, 充足」の反意語の insufficiency を選ぶ。
- reasonable 「〈値段などが〉手ごろな, リーズナブルな」 modest 「控えめな, 適度の」と同義と判断。
- available 「利用できる」 accessible 「使いやすい, 使うことができる」と同義と判断。

III

1 ① d	② b	2 ③ a	④ e	3 ⑤ d	⑥ e	4 ⑦ e	⑧ c	5 ⑨ a	⑩ d
6 ⑪ b	⑫ d	7 ⑬ d	⑭ a	8 ⑮ b	⑯ a	9 ⑰ d	⑱ c	10 ⑲ b	⑳ d

- This project would **not have been completed** without the students' help.
「学生たちの助けがなければ、このプロジェクトは完成されなかったであろうに」仮定法過去完了の文。
- I **find it difficult to** finish this work. It is taking a long time.
「私はこの仕事を終えるのは難しいと思う」it は to finish this work という不定詞句に対応する仮目的語。
- According to the graph, the output of company A was twice as **high as that of** company B last year.
「グラフによると、昨年A社の生産量は、B社の2倍だった」that は前出の the output を受ける代名詞。
- I didn't do well on the math exam. I **should have reviewed what** I had learned in the lectures more.
「私は講義で学んだことを、もっと復習しておくべきだった」should の後 have + 過去分詞が来て、「…すべきだったのに(しなかった)」という意味。
- When you leave your laboratory, **don't forget to lock** the key and return it to the security guards' office.
「研究室を離れるとき、鍵をかけて警備員にそれを返すのを忘れないで下さい」命令文。forger が後に不定詞を目的語にとり「(これから)…することを忘れる」という意味。
- Who **do you think will** be nominated for the award?
「誰がその賞にノミネートされると思いますか」間接疑問文。文全体としては yes/no 疑問文ではな

いのポイント。疑問詞 who が文頭に出る。

7 He didn't have time to buy the textbook for the first class, **and neither did I**.

「彼は初めての授業の教科書を買う時間がなかった。そして私もまたなかった」neither 以下倒置。

8 I checked the schedule this morning, but **it was yesterday that** our teammates had a meeting. I missed it.

「私は今朝スケジュールチェックした。しかしチームメートがミーティングしたのは昨日だった」強調構文(分裂文)であることに気づけるかどうかポイント。

9 We conducted two experiments, **one of which was** so successful.

「私たちは2つの実験を行った。そしてそのうちの1つは成功した」which の先行詞は前出の two experiments.

10 I can't remember where I put the file, but this **is the place where** my father found it.

「私はどこにファイルを置いたか覚えていないが、ここが父がそれ(=ファイル)を見つけた場所だ」the place を先行詞として、関係副詞 where 以下修飾している。

IV

1 r	2 d	3 f	4 a	5 i	6 m	7 p	8 c	9 s	10 n
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

1 動詞が入らないと正しい文が成立しない。vary「異なる, 違う, さまざまである」

2 空欄の後に名詞句が続いていると判断できるかどうかポイント。前置詞が入る。despite「…にもかかわらず」

3 Figure 1 の Bachelor's 1997 年・2016 年の割合(数値)を確認。27%から 19%に下がっている。副詞 down が適切。

4 空欄には形容詞が入る。doctorate, master's, bachelor's と「全て」の学位の数が増えている。

5 空欄直前の has と合わせて現在完了時制を形成している。全問 4 は number に対して percent に注目。1997 年から 2016 年にかけて、Bachelor's が 18→21%・Master's 18→25%とわずかに増えていることが分かる。

6 前置詞が入る。over は「(数量・程度が) …より多く, より上で」という意味。

7 前置詞が入る。under は「(数・量が) …未満で」という意味。

8 空欄直前の has と合わせて現在完了時制を形成している。Figure 3 bachelor's degrees の割合(percent) が過去 20 年にわたって減少している。

9 between 1997 and 2006 で「1997 年と 2006 年の間で」という意味。t の 2006 and 2016 の期間は、「減少している」ので不適切。

10 形容詞が入る。small は「(数量などが) 少ない, わずかな」という意味。

V

1 a	2 c	3 d	4 b	5 c	6 b	7 a	8 c	9 d	10 c
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

1 文章全体の内容から判断する。

2 第 1 段落第 1 文より判断できる。

3 第 2 段落第 3 文の後半より判断できる。

4 第 3 段落第 2 文より判断できる。

5 第 4 段落第 3 文より判断できる。

6 第 4 段落の内容より判断する。

7 第 6 段落の内容より判断する。

8 第 9 段落最終文より判断できる。

9 第 10 段落の後半の内容から判断する。

10 第 11 段落中 adjustable「調整[調節]できる」という語が成す表現がいくつかある。この言い換えは「1 種類でできるだけ全員に対応する」という意味で用いられている。

総評

- I 昨年度までに引き続き、会話文における挿入文を選ぶ問題。標準レベルの問題。
- II こちらも昨年度までに同意語を選択させる問題。標準レベルの語彙力があれば、全問正解できる。
- III 語句整序問題。2020年度から「使用されない単語が一つ含まれている」形式が踏襲されている。基本的なスタイルは、不要な語と似た関連性の高い語とを比べて、どちらを選んで文を作ればよいかを検討する。準動詞・関係詞・助動詞といった、動詞に関連した単元に関連した内容が目立つ。
- IV 前年までのIVを引き継いでいますが、選択肢間の【選別】をしてから、問題に取り組んだ方がよさそう。文章と4つの図の対応する箇所を見出して、時間を確保し落ち着いて取り組めるかどうかが大切。
- V こちらも前年までの形式同様、長文の内容一致問題です。じっくり読んで、解答の根拠となる箇所を確実に見出せるかがポイント。全問正解とは言わないまでも、10問中7問以上正解できれば、かなり優位に立てるはず。

～全体を通して～

前年までと同じ形での出題。1月下旬から2月上旬までの時期からずれた入試で、本格的に過去問に取り組めていない受験生が多いであろう中、形式・レベルは例年安定しているので、過去問を十分やりこんで入試に臨んだ受験生にとっては有利だったのでは。問題数のわりには時間があるので、IV・Vの長文2題に十分時間をかけて、確実に正答へつなげられるかが非常に大切なポイントになってきそう。